

夜間集会（9月15日（火）17：00～19：00）

「ウィズコロナ、ポストコロナの学会・年会の在り方」

日本地球化学会将来計画委員会

委員長 南 雅代

司会：益田晴恵 副会長

1. 出版事業：30分（小畑 元 地球化学編集委員長、鈴木勝彦 GJ 編集委員長から話題提供、発表各10分、質疑合わせて10分）
2. 今年のオンライン年会について：30分（南 雅代 第67回年会 LOC 委員長、服部 祥平企画幹事から話題提供、発表各10分、質疑合わせて10分）
3. ウィズコロナ、ポストコロナの学会・年会の在り方について：25分（将来計画委員会から話題提供、発表10分、質疑15分）
4. 2026年 Goldschmidt 招致について：20分（横山哲也 国際対応委員長から話題提供、発表10分、質疑10分）
5. 総合討論：15分

学術団体を取り巻く昨今の環境変化は激しく、速い。特に今年は、新型コロナ禍により、教育・研究環境が大きく変化し、学術団体も迅速なる対応が求められている。今年の夜間集会では、「ウィズコロナ、ポストコロナの学会・年会の在り方」という課題を取り上げ、会員間の忌憚のない意見交換を行いたい。

まず1つ目「出版事業」に関して、Geochemical Journal (GJ) 支援の科研費が継続中ではあるが、将来的に科研費に頼らない運営体制を構築することが重要である。持続可能な GJ の運営・出版形態や、和雑誌「地球化学」に期待される役割・活性化について議論したい。

2つ目「今年のオンライン年会について」は、会員に対して実施した年会アンケート結果を示し、それに基づいて準備中であるオンライン年会についての趣旨・概要を紹介する。引き続いて、オンライン年会の具体的な進め方について説明を行う。新たな試みであるオンライン年会をより有意義なものにするために、会員からの提案、要望、意見交換を行う。

3つ目「ウィズコロナ、ポストコロナの学会・年会の在り方」では、2つ目の議論を踏まえて、コロナ禍が教育・研究現場に広範囲に及ぶ中、学会はどうあるべきか、進むべきかについて総合的に議論する。対面の年会、オンライン年会のメリット・デメリット、テクニカルな問題など、特に若手からの率直な意見を募り、今後の学会・年会の方向性について議論したい。

4つ目「2026年 Goldschmidt 招致について」では、2026年に再び日本で Goldschmidt を開催する可能性について議論する。Goldschmidt を主催する Geochemical Society は2026年大会を東アジアで開催することを考えている。2026年は2016年横浜大会の10年後にあたり、地球化学会の方針である「10年に一度の Goldschmidt 招致」に合致する。3つ目の議論も踏まえつつ、開催候補国として手を挙げるべきかどうか、議論したい。